

日七月三

常磐毎日新聞

定価 一月五円 三月十五円 半年三十円 一年六十円
 廣告料 五字一円 十字二円 二十字三円 三十字四円 五十字五円 一〇〇字七円 一五〇字九円 二〇〇字十一円 三〇〇字十三円 四〇〇字十五円 五〇〇字十七円 六〇〇字十九円 七〇〇字二十一円 八〇〇字二十三円 九〇〇字二十五円 一〇〇〇字二十七円
 日曜 祭日の翌日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社
 電話 六二〇〇番

シナリオ 狸湯の仇討

原作 江見水蔭
脚色 木津茂太郎

【一】

山また山の眺望、早春の美しい樹々が山また山を飾つてゐる。パイラム的にそれを見せる熊野本宮から一里足らずの山奥
 田邊の方から栗楢越で行けば十二里餘の處にある山間の湯の里
 湯之峯
 湯の峯の温泉湯をゆるやかに移動して見せる東光寺といふ廢寺
 東光寺の石段を一人の旅客が登つて来る。小さく見える。その姿が次第に大きくなつて来ると旅客の風俗が分つて来る。ざんざり頭の若い武士で旅合羽に野袴、手甲、脚半、桐油包みを二つ振分けにして大小には黒羅紗の柄袋。
 役者にも無いやうな美男、
 石段を登つてゆく。
 東光寺の薬師堂に堂守の坊主がゐる。御佛にかへるよりは温泉宿の

用を辨じてゐるにすぎない。
 今旅客はこの坊主の面前にあらはれる
 へえこれは旦那様おつかれで御座います。
 本宮へいらつしやるときつと途中の山道で日が暮れて了ひませう。

巻紙の巻
 き終めた
 紙の端は

小笠原流では半分になつてゐるが現在では折目の左端に来るほどよい

お泊りなら温泉のフンダンに湧いて居ります當地の方がおくだびれをお癒やしになるのに御都合がよろしいと存じます。……
 旅の若い武士
 いかにもさうだな。名

明日の献立
 【朝】にしめ：かんびよう 高野豆腐
 【晝】ごま油：ぼらごま油 あげ 大根 つゆか け 玉葱 ふくめ煮
 【晩】櫻あへ：じやが芋 うどはす

高い湯の峯の温泉。是非一泊して参らうが宿は何んと申すのがよろしからう。

坊主
 や、その宿の儀はこの土地の申し合せで當所初めての御客様はその日／＼の當番宿に御案内する定めになつて居ります。旦那様には今日は室内屋と申しますのが當番で御座いますからあれあれに見えませう二階屋がそれで御座います。


旅の武士
 左様か。一夜の宿ゆえ何處にても苦しうない坊主
 それでは御案内致させていただきます。

さういつて置いて坊主は東光寺の高臺から下の湯の町に向ひ大聲で室内屋さんお客様ぢや

カメラ坊主の口もとから湯の町の方へ急に動く迎ひに来た女のところへカメラ止まる。


看護婦急派の求めに應じます


平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

胃腸病薬の王座を占むる純漢薬
 松前 家傳

霊効散 (無効返)
 ホントに北海道で出来た靈薬が着荷致しました。今迄のは福島市内で製薬したので兎角の批評がありました。今度のものは真正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出来ました。

定價
 試用分(八日分) 輕症用(廿日分) 五十銭
 重症用(四十五日) 壹圓

販賣部 地方代理店
阿康薬舗
 電話四四番

磐城セメント會社特約店

大空屋商店
 磐城平町五丁目 電話九番九九番
 □良品廉賣に勝る商略なし
 □確實敏捷はの生命なり

吸入用酸素純度 99%

吸
 モノサシ
 マス
 ハカリ
 体温器
 寒暖計
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
関内薬局
 電話四〇番

専門 内科一般
 宅診 内科は何でも診療致します
 往診 呼吸器病ばかりではありません
 平町南町六五
川井内科診療所
 電話一八一番
 醫學士 川井重之
 女醫 川井安子

鹽豚
 肉蒲鉾
 田町 三三三屋

質流れ衣裳類 一式
 御仕立御祝儀物
 三丁目通り
旭屋衣裳店
 電話四二五番

毎度御ひいき
 有難ふ御座ります
 うなぎの御用命は
うなぎ奴
 平町田町(電話二二番)
 ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

中村齒科醫院
 平町鍛冶町七

忠魂碑前の

慰靈祭

戦死者の近影輝き 神佛兩様の祭式を

多門師團長を迎へて満洲事變殉難者慰靈祭は本日午前十一時より松ヶ岡公園忠魂碑前にて執行碑前には各戦死者の寫眞が飾られ青沼支會長の開會の辭と共に神式及び佛式に依る祭式を厳肅に行ひ青沼支會長山崎在郷軍人聯合分會長の祭文あつて多門師團長本縣知事、歩兵第二十九聯隊長の各來賓祭文あり

司會者 來賓 在郷軍人 老兵會員 赤十字社員 愛國婦人會員 一般參列者 學校職員生徒

の順位にて敬々しく拜禮し各遺族へ神酒及供物を頒贈して式を閉じた

一致團結喜んで

國難に當る

國防研究會が

三ヶ條を決議

本日午後一時より平第一小學校庭に舉行された石城國防研究會發會式は擴張機を通じ多門師團長の講演あつて左記の決議

- 一、國際政局の推移如何に拘らず一致團結喜んで國難に赴き皇國使命の貫徹に邁進せん事を期す
- 二、滿洲新國家の堅實なる發達に寄與貢獻し苟くも是れを妨害阻止する者あらば舉國一致斷乎是れを排撃以つて東洋平和の確立を期す
- 三、我國論を無視し帝國

平窪農倉

本月末竣工

(顧問)本縣知事外若干名

春蒔期から開始

石城郡平窪産業組合では工費五千七百圓にて農業倉庫を役場隣に設置すべく昨年

末より着工中であつたが本月末迄には竣功する豫定なので春蒔期より事業を開始する筈

大浦校ピアノ 石城郡大浦小學校では此程村補助三百圓有志寄附金四百圓を以つてピアノを購入する事に決定した

匡救築港に

感謝して

一戸一名づつ

土盛工事奉仕

苗代作り

農試の講習

石城郡植田町宇小濱部落では目下縣營匡救事業として漁港の修築工事中であるが部落民は此の工事に感謝の意を表する爲め近く漁港に通ずる縣道の愛護デーを催し一戸より一名づつ出役して八十餘名が縣道の土盛工事を行ふ事になつた

神谷村農事試験分場では來る十日午前九時より同場にて特別傳習會を開き郡山本場の丁技師が苗代の作り方及び稻の播種に就いて講演する

自力更生講演の

講師と演題

農村を主として

既報石城郡農會主催で來る十八日午前十時より平第三小學校に催される農村自力更生講演會の演題及び講師は左の如く決定した

(農村更生と農會の使命) 農林省 渡邊保治氏

(自力更生に就いて) 兵庫縣農會會長山脇延吉氏(農産物の販賣統制) 帝國農會技師安藤重男氏(國防と農村) 歩兵中佐入江義郎氏

當籤番号發表

天地堂新築落成記念、蓄音機 萬年筆及レコード抽籤券特賣以來、御陰様を以て豫想以上の好成績を得まして、一月廿四日限り賣切れと相成りました事は、各位の熱誠なる御聲援の賜と厚く御禮を申し上げます。就きましては特賣規定に基き關係者立會の上、嚴正なる抽籤の結果、當籤致しました番號を發表致します。

(賞品引換期間) 昭和八年參月拾日より 同年四月拾日限り (期限後は無効とす)

| | | | |
|----|------|---|-----|
| 壹等 | 0089 | 計 | 2本 |
| 貳等 | 0099 | 計 | 5本 |
| 參等 | 0044 | 計 | 15本 |
| 肆等 | 0024 | 計 | 30本 |
| 伍等 | 0003 | 計 | 50本 |

天地堂

平町 電話五八九番

コクタール蓄音機
コロムビア蓄音機
コサツク蓄音機
萬年筆發賣元

歓迎の人波で

平驛頭は大雑踏

多門師團長歓迎に答へて

遺族の人達に香奠を贈る

多門師團長の來平さるゝ今日、雪上りの好天氣に郡下各町村から押し掛けた人の群れは平驛頭に山を築いて押し返しのならぬ大雑踏

平署員 や青年團其他諸團體總出で聲を濁らし、人波みを押し止め様とするが三陸の海嘯の様な群集はわれ等の師團長を迎へんものと重なり合つて舞めき合ふ、午前十時三十分冲天に轟く火花が列車の到着を知らせれば

流石の 大群集も鳴りを鎮めて固睡をのむ、山崎聯合分會長其他の案内でわれ等の師團長多門中將は梅津參謀、高木副官、小島騎兵聯隊長を隨へ平驛の正面に颯爽として歩みを運ぶ、餘り背は高くないが

満蒙の 天地に千軍萬馬を叱咤した其の氣概は眉宇に漲つて、満身是れ膽、大山崩るゝも我れをのゝかじの強い輝きが溢れて居る歓迎の喇叭吹奏に擧手の禮を以つて答へ、更らに左りに手に控えた戦死者遺族の方へ歩みを運び香奠の包みを夫々に贈つた、遺族の人々

歓迎に答へながら公園に向ふ、國旗を掲揚した各戸の空高く火花は鳴り響いて居る、自動車は通り過ぎた後から沿道の群集はまた崩れて雪解けの道をごつた返し非常な賑ひを呈した

各團體 や學校生徒の

明晩の母の日會

趣味口演と映畫

既報平 婦人會 及び女子青年團主催の母の日會は明八日午後七時より聚樂館に催され、川崎本社長の趣味口演あつて後現代劇『お、吾子』『希望の丘』『時代劇股旅仁義』等の映畫を上映すると

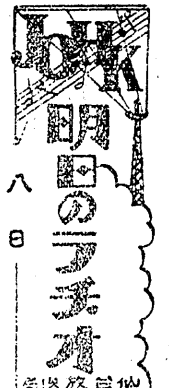
折好く師團長も

來場した

けふの青年團總會

第三方面青年の意見發表

石城郡第三方面青年團總會を催し午後三時閉會したが本日午前十時より聚樂館に開會、團員二千餘名の多數に及び午前中野砲二聯隊和久少佐の實戰談あつたが特に來平された多門將軍の來場を得て近來にない盛會



今晚は北西の風晴曇半し明日は北の風大體晴れ海上荒れ模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- 獨唱と齊唱 福島縣下小學校兒童
- 後七、三〇 講演「市町村に對する預金部資金の融通に就て」大藏省預金部仙臺支部長元尾光
- 治重(太平洋を目ざして)好間猪狩義廣(非常時日本の方に)豊間鈴木徳治
- 後八、〇〇 講演「小坊主の忠義」大島伯鶴
- 後八、四〇 尺八「九州鈴慕」山口四郎
- 後九、〇〇 合唱 仙臺オラトリオ協會
- 後九、三〇 時報全國ニュース 氣象通報 番組豫告

陸軍記念日の

郡下講演豫定

來る十一日の陸軍記念日を前にして郡下各學校に催される軍事講演會は左の如くである

- (五日湯本校) 藤井少佐
- (七日平第一) 和久少佐
- (十日赤井第二、警中) 八谷少佐
- (同日平商、平窪校) 駒澤中尉

人夫を爭奪

匡救事業線上で

既報平町の匡救事業たる新川改修工事の竣工期日繰り上げの爲め平町では登録労働者以外に臨時登録を行ひ一日百四五十名位まで増員して工事を急ぐ計畫で毎日職業紹介所にて登録を行つて居るが同紹介所には同様

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「タラノカレー」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭講座
- 後〇、〇五 満州より「錦州より中盤」
- 後二、〇〇 婦人講座「歌の正しきうたひ方」六實演アルト 鈴木信子
- ピアノ伴奏 川村信義
- 後五、三五 少年少女職業指導講座「百貨店員にならなは」岩崎隆
- 後六、〇〇 子供の時間
- ラヂオスケッチ「入學試験場風景」東京子供音楽會
- 後七、三〇 講演
- 後八、〇〇 俚諺「正調博多節」唄秀三味線綾子
- 後八、一五 小唄 唄堀小美一三味線同小多美
- 八、三〇 薩摩琵琶一高山重忠「吉村岳城」
- 後九、〇〇 新邦樂「漁村の春」尺八一部河村逸童
- 八二部佐藤這鳴 箏淺井長子

玉山鑛泉に

自動車を通じた

湯場では客間を新築れると

亭主の金

三百圓を拐帶

情夫と平町へ

栃木縣茂木町西片町佐藤正雄妻ヨシ(三八)は先月廿八日夫の金三百圓を持って情夫の佐川元治と手を取り平町に逃走十五丁目常磐旅館方に投宿して居たが夫の手配で平署に探知され六日夜活動見物の歸途取押られた

貧困兒童を

無料で調髪

石城郡學校卒業生の組織する好生會では此程積立金の一部を以つて同村貧困兒童五十餘名に無料調髪券を交付する事となつた

四倉點檢

海岸で執行

四倉警察署管内聯合消防組の点檢は來る十五日午前九時より同地海岸にて執行さ

一冊の代金で

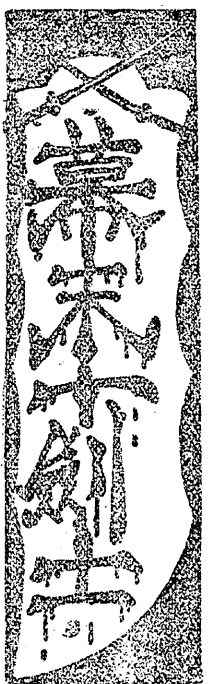
御希望通りな

五冊の雑誌が

自由に讀める

川崎文庫

申込次第(規則書進呈) 電六三〇番



【禁轉載上演及映畫】

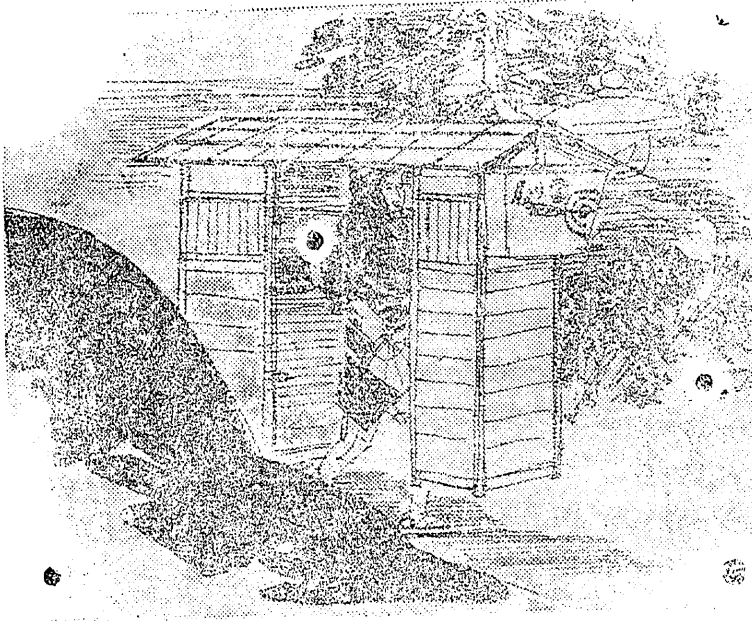
悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第二百八十四席
有馬侯の御馳走振

有馬玄蕃頭侯は夜そば賣の長兵衛について荷のかつぎ方からそばをこしらへる様子を學びどうやら卒業いたしました、そこで平常より最も懇親にいたして居る諸侯を招き茲に手製のそばを馳走することにしてそれく使

者を出した、時は年暮の廿八日、今の午後三時頃から赤羽根の有馬邸へ招待を受けた諸侯は續々詰寄せる庭に面した廣間に通りました、先づ當日の客は播州姫路の城主表高十五萬石酒井雅樂頭、奥州盛岡の城主甘萬石南部大善大夫、紀州廣島四十餘萬石松平安藝守、奥州仙臺にて六十餘萬石伊達陸奥守、續いて雲州松江にて十八萬石松平出羽守この方は号を不味といふ、諸侯の間での通人です、家來伴れて忍びで江戸市中を往來いたし深川仲町の料理店平清に行つた時に、下の部屋に奇なる者が居るから見ると申し家來を伴れて行つた、奇なる事とはどんな事かと家來がみるとうす暗い隅の部屋で五布蒲團一枚にくるまつて料理番が寝てゐた、なんでこれが不味だ

と殿様に尋ねると、不思議ではないか下に敷くべきものを着て寝て居ると云つたさすかお大名下情に通じて諸侯の内の苦勞人だ「各々御聞きなされたか、玄蕃頭



殿に在りて賣

となつて手製のそばを馳走いたすとの事、定めし興あることとぞざらうと云はれて一同はそれは面白くと喜んでゐるのです、内に日が暮れた、この座敷には燭が點る、すると築山の後の方でチンリンチンリンチン

リンといふ風鈴の音が聞えた、その方へ客は目を着けると荷をかついで出て来たはどうみても夜そば賣殿「そばうはツイ——葱南蠻しつぽこ——」

お茶を出して「暫くお待ち下さる様に」
と采女より申し入れた、スルと出羽守侯が「出「使者の口上によると御主人手製のおそばを馳走いたす由、定めし美味でからう」
采「左様にございます、夜そば賣となりまして各々様へおそばすゝめるとの事でございます」
出「それは面白い、御主人が夜そば賣の扮装をして我々の前にてそばを調理いたすとは一段めずらし」
皆縁まで出て來ました、時に有馬侯はそばの玉を鐵砲俵の中に入れて湧き立つ銅壺の湯にさし込みスツツと湯を切つて井へ移し暖ためて置いた汁をかけ花かつをを分散し割り箸を載せて出した、給仕は采女に金盃それに大六の三人

出羽守侯も五布蒲團の柏餅を珍らしくなつた、それと同様で有馬公も今日は夜そば賣りの扮装にてそばを來客に馳走して驚かしてくれようとの大抱負、當日の取締役は近侍の松崎采女、渡邊金彌、それに劍術師範の菊地大六、つづお嗜方には

「と酒井侯が箸を取つたが一つさき無い、一本の箸では食べられぬ、その邊に落ちてゐるかと思つたが見當らない、他の人々も夜そば賣のそばは一つの箸にて食する事になつて居るか、さうと不思議な事と顔を見合した、其時に松平出羽守出「各々恠うしてこのそば

は食するものである」
と云びながら左の手に井を取り右で箸を持ち前歯でくわへて引くとバラリと二つになつた、一同これを見て丁と小膝を拍ち
○「イヤ恐れ入つた、イヤ感ずべし」
とほめたが、出羽侯は大得意、どうだおれは通だらうと威張つてゐる。

貨切の●●●
御用命は！
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九ニタクシーへ!!!

御贈 答品
産名城磐
魚問屋
店理代平命生本日大最優最
榮盛賀志
番三一電目丁四平

市原醫院
平町田町(電話一一四番)
内科小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科梅毒、淋病 市原三三男
入院隨時

平新川町十九
外産婦人科 木村病院
電話一六四番
院長 木村寅次郎
産婦人科 醫學士 内木宗八

目丁二町平
一シクタ井三
番五八六話電